

# 投稿の手引

## 1. はじめに

この「投稿の手引き」は投稿規定 **3.1** により論文等の投稿に当たり原稿作成の指針として設けられたものである。よく読んで、体裁の整った、読みやすく、理解しやすい原稿を作成していただきたい。

## 2. 和文の「報文」および「装置と技術」の書き方

### 2.1 表題, 著者名, 研究機関

**2.1.1** 原稿の1ページ目中央に、表題、著者名、研究機関とその所在地を日本語で書く。関連のあるいくつかの論文を同じ表題で発表する場合には、ローマ数字 I, II, III で番号をつける。また、副題をつけてもよい。

**2.1.2** 原稿2ページ目には、1ページに対応する項目の英文を中央に書く。

**2.1.3** **2.1.1** および **2.1.2** で述べた事項を記入する際には、次のことを注意すること。

a) 著者がこの論文の内容についてすでに講演している場合、そのことを必ずしも記載する必要はないが、特に著者が希望する場合には、表題に†などの記号をつけ、そのことを脚注に書く。

b) 表題の英文の冠詞、接続詞、前置詞以外の単語の頭文字は大文字にする。ハイフンでつながれている場合にも、High-Resolution Spectroscopy のように、頭文字を大文字にする。

c) 和文表題中での英文字・略語の使用、および英文表題中での略号の使用を避ける。

### 2.2 Synopsis

**2.2.1** Synopsis (英文) はその論文の目的・方法・重要な結果などを簡潔明確にあらわすように著者自身が書いた論文要旨である。Synopsis には表題に表わされていることを繰り返す必要はない。

**2.2.2** 「報文」と「装置と技術」には必ず Synopsis をつける。

**2.2.3** Synopsis の用語は英語にかぎる。長さは150語程度までとする。

### 2.3 Keywords

**2.3.1** 「報文」と「装置と技術」には英語の Keywords をつける。

**2.3.2** 長さは15文字以内で、5語以内程度とする。

### 2.4 和文要旨

「報文」と「装置と技術」には、和文要旨(200字程度まで)をつける。

### 2.5 本文

#### 2.5.1 一般的注意

a) 本文は、日本語平仮名まじり、横書きとし、当用漢字、現代かなづかいを用いる。術語は、学会および文部科学省で制定されたもの(たとえば、学術用語集分光学編)を用いることが望ましい。

b) 化合物名は、原則として IUPAC 命名法に従ったものを用いること。ただし、慣用的に用いられている化合物名に関しては、この限りではない。

c) 単位は、SI 単位を用いること。SI 単位に属さない単位を用いる場合には、その定義を明示すること。

d) 物理量の記号や単位は、SI の表記法に従ってそれぞれイタリックと立体で表すこと。

e) 人名、または日本語になりきっていない術語などは、原則として、原つづりで書くか、あるいは、日本語の後に( )

内に原つづりを書く。

f) 欧語の原つづりを日本語に混用する時は、なるべく英語を用い、英独仏露語などの混用をさける。原つづりが文頭にきた場合には、最初の文字を大文字にし、文中にある場合には全部小文字とする。ただし、人名は頭文字を大文字とし、また略号を説明する場合には、たとえば、**Local Thermodynamic Equilibrium (LTE)** のように略記される頭文字を大文字とし、ゴチック（またはボールド、以下同じ）とする。略記される文字の一部が頭文字でない場合には、**Vacuum Ultraviolet (VUV)** のように、略記される頭文字は大文字のゴチック、その他は小文字のままゴチックとする。

g) 原稿の各ページにかならず通しのページ・ナンバーを入れておくこと。

### 2.5.2 項目のわけ方

a) 論文はいくつかの項目にわけける。項目のわけ方は、大項目を 1., 2., 3., …, 中項目を 2.1, 2.2, 2.3, …, 小項目を 2.1.1, 2.1.2, 2.1.3, …とする。さらに細かく項目をわけたい時は、a), b), c), …を用いる。

b) 大項目は、ゴチックで中央に書く。中項目は、ゴチックで左端を 1 字分あけて書く。小項目は、ゴチックで左端を 2 字分あけて書く。これらの場合、本文は行を改めて書く。a), b), c) 等は、左端を 3 字分あけて書きはじめ、その後 2 字分あけて、本文を続ける。

c) 本文を改行する場合は、原稿用紙の左端を 1 字分あけて、2 字目から書きはじめる。

2.5.3 字体の指定などが特に必要な場合には、右マージンに書き込むこと。

## 2.6 表, 図, 写真の作り方

2.6.1 表, 図, 写真には、それぞれ通し番号をつける。表は Table I, Table II, …とし、図と写真は一緒にして、Fig. 1, Fig. 2, …とする。

2.6.2 表, 図, 写真の挿入箇所を原稿用紙の右側の余白欄に、Fig. 1, Table III などのように赤字で指定する。（ソフトウェアの規格上欄外記入ができない場合には、指定しなくても構わない。）

2.6.3 表の説明は英文とし、表と共に書く。句読点に注意し、特に、表の見出し、説明の文章の最後のピリオドを忘れないようにする。

2.6.4 図, 写真の説明はすべて英文とし、原稿の末尾にまとめて書く。句読点に注意し、特に、図, 写真の見出し、説明の文章の最後のピリオドを忘れないようにする。

2.6.5 図は、大きさのいかにかわらず、図ごとに別のページ（用紙設定は、A4 に統一）に作成する。

2.6.7 掲載する表, 図, 写真の横幅は、シングルコラムの場合が 8 cm, ダブルコラムの場合が 16 cm であり、必要であれば、これ以外の横幅で印刷することもできる。縮尺を考えて、文字の大きさ、線の太さなどに十分留意すること。

2.6.8 図, 写真の原稿の各ページには、Fig. 番号, 著者名, 刷り上がりの横幅を書き、必要に応じてその他の印刷の指定を記入する。原稿がカラーの場合は、印刷がカラーかモノクロかを指定する。その際、これらの指定が図や写真に重ならないように注意する。

2.6.9 図, 表, 写真などを他の出版物から転載する場合は、投稿前に著者自身で著作権者より転載許諾を取得しておくこと。

## 2.7 文献の書き方

2.7.1 文献は論文末尾にまとめて書く。本文中には通し番号で<sup>1,2)</sup>あるいは<sup>3,4)</sup>などと書く。番号は、本文中の順序にしたがってつける。文中の人名は特に必要な場合以外は、姓のみとし、文中で文献を引用する時は、文献 3（英文の場合は Ref. 3）というように書く。また、文献引用番号が文末にくる場合、和文では番号の後にピリオドをつけ、英文では番号の前にピリオドをつける。コンマの場合も同様とする。例参照のこと。

(例) 最近、レーザー応用技術が急速に進歩してきた<sup>2-6)</sup>。とくに……。

Laser application technique has recently made a big progress.<sup>2-6)</sup> Especially, .....

**2.7.2** 引用文献は、雑誌などの場合、著者名（漢字を用いるときは姓・名の順、アルファベットを用いるときは名前のイニシャル・姓の順）、誌名、巻、ページ、年の順とする。誌名は立体、巻数はゴチックとする。著者名と誌名の間はコロンを入れる。雑誌名の省略法は、Physics Abstracts や Chemical Abstracts に準拠する。共著者が多数の場合でも文献欄では省略しない。

(例) 1) 山田太郎, 野原次郎: 分光研究 **52**, 145 (2003).

Taro Yamada and Jiro Nohara: J. Spectrosc. Soc. Jpn. **52**, 145 (2003).

2) D. Alpert: J. Appl. Phys. **24**, 860 (1953).

3) H. Klumb and H. Schwarz: Z. Phys. **122**, 418 (1944).

4) A. Johnson, M. Kato, and L. A. Lazarsfeld: J. Opt. Soc. Am. **53**, 1258 (1962).

5) J. Doe: Thesis, University of Chicago, U.S.A. (1960).

**2.7.3** 単行本などの場合、洋書名はイタリックとする。和書名は、イタリックにしない。

(例) 1) G. Herzberg: *Atomic Spectra and Atomic Structure* (Dover, New York, 1944) p. 148.

2) R. W. Nicholls and A. L. Stewart: *Atomic and Molecular Processes*, ed. P. R. Pates (Academic Press, New York, 1962) p. 55.

3) 日本分光学会編: 臨床検査と分光分析法 (医学書院, 東京, 1970) p. 85.

### 3. 英文の「報文」および「装置と技術」の書き方

#### 3.1 一般的注意

3.1.1 原稿の各ページ下中央に必ず通しのページ・ナンバーを入れておくこと。

3.1.2 改行するときには、行のはじめを5字あける。ピリオドのあとは、2字あけて次の文章をタイプしはじめる。

#### 3.2 表題、著者名、研究機関および Synopsis

**3.2.1** 原稿第1ページには、表題、著者名、研究機関とその所在地の順に記す。また、日本語で表題、著者名、研究機関、その所在地を書く場合には、2行あけて続ける。日本語での表記は、必須ではない。書き方については、2.1を参照のこと。

**3.2.2** 原稿第2ページには、中央に Synopsis とゴシックで記し、次行から英文要旨(150語まで)を書く。英文要旨は、文頭をあげないで書き、途中改行してはならない。

#### 3.3 本文

##### 3.3.1 項目のわけ方

a) 項目のわけ方は2.5.2 a)を参照のこと。

b) 大項目は用紙の中央に位置するようにゴチックでタイプする。中項目は、左端からゴチックでタイプする。小項目は左端を2字分あけて3字目からイタリックでタイプする。a), b), c) は左端を3字あけて4字目から項目表題をタイプし、そのあと5字あけて本文をつづけてタイプする。

c) 大項目の書き方は表題の書き方と同じで、2.1.3 b)を参照のこと。

d) 中項目、小項目、および a), b), c)などの項目表題は、はじめの単語の頭文字のみ大文字とし、他はすべて小文字とする。

#### 3.4 表、図、写真の作り方

2.6に準ずる.

### 3.5 文献の書き方

2.7に準ずる.

### 3.6 英文の表現

英文は、論文の内容が誰にでも正確に理解されるように書かれていなければならない。表現が不適切な場合の原稿の取り扱いについては投稿規定 4.5 を参照のこと。

## 4. 「報文」および「装置と技術」以外の原稿の書き方

### 4.1 総説、若手のショートレビュー、講座

4.1.1 Synopsis（英文、150語程度まで）と和文要旨（200字程度まで）をつける。

4.1.2 図・表の説明はすべて日本語とし、図・表中の文字等もできるかぎり日本語とする。

4.1.3 他は、和文報文の書き方（2.参照）にしたがって書くこと。

### 4.2 分光便利帳、技術ノート

4.2.1 Synopsis（英文、80語程度まで）をつける。

4.2.2 ホームページ掲載用の和文要旨（100字程度まで）をつけることが望ましい。

4.2.3 図・表の説明はすべて日本語とし、図・表中の文字等もできるかぎり日本語とする。

4.2.4 他は、和文報文の書き方（2.参照）にしたがって書くこと。

### 4.3 読者の広場、トピックス

4.3.1 図・表の説明はすべて日本語とし、図・表中の文字等もできるかぎり日本語とする。

4.3.2 他は、和文報文の書き方（2.5～2.7参照）にしたがって書くこと。

### 4.4 博士論文紹介

4.4.1 はじめに表題、著者名、研究機関とその所在地、博士号授与機関、博士号の種類、博士号取得年月日を書く。

4.4.2 表題は、博士論文の表題と一致させること。

4.4.3 他は、報文の書き方にしたがって書くこと。

### 4.5 新刊紹介

はじめに題名（および巻号）、著者名（または編集者名）、出版社、同所在地、出版年度（何版）、サイズ、頁数、価格、ISBNの順に記載する。最後に、（ ）内に紹介者の所属機関名と氏名を記入する。